

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒への
カームダウンの要求を
他者に伝えるための指導実践

生徒の実態

- 知的障がい 自閉症
- 発語はなく，理解言語は少ないものの，日常よく使う言葉は理解することができている。
- 環境の変化や行動の切り替えを受け入れることに難しさがある。
- 両手を軽く合わせてお願いのサインを困った場面で行うように練習中である。
- 活動に取り組んでいる最中に，突然に不適切な行動でやりたくない気持ちを表現することがある。
- 普段できている活動でも拒否する等，何が原因で情緒が不安定になるか分かりにくい。
- 活動の拒否，不快な気持ちは寝転んだり，泣いたりして伝える。不安定になる原因や前兆が分かりにくい。

保護者の願い

「自分の思いを表出し，他者に伝えることができるようになってほしい。」

教員の願い

「拒否や不快な気持ちを自発的にサインで伝えるようになってほしい。」

【目標】

教員の肩にトントンとタッチして，休みたいことを伝えてからカームダウンエリアに行くことができる。

【指導場面】

情緒が安定している昼休みと帰りの2場面

【指導方法】

- ① T1が「カームダウンエリアで休みましょう」と声をかける。
- ② 対象生徒の後方に居るT2がT1の肩に触れて指差す。
- ③ T1はすぐにカームダウンエリアに行くように促す。
- ④ カームダウンエリアで1分間カーテンを閉めて過ごし，タイマーが鳴ると活動に戻る。

【記録】

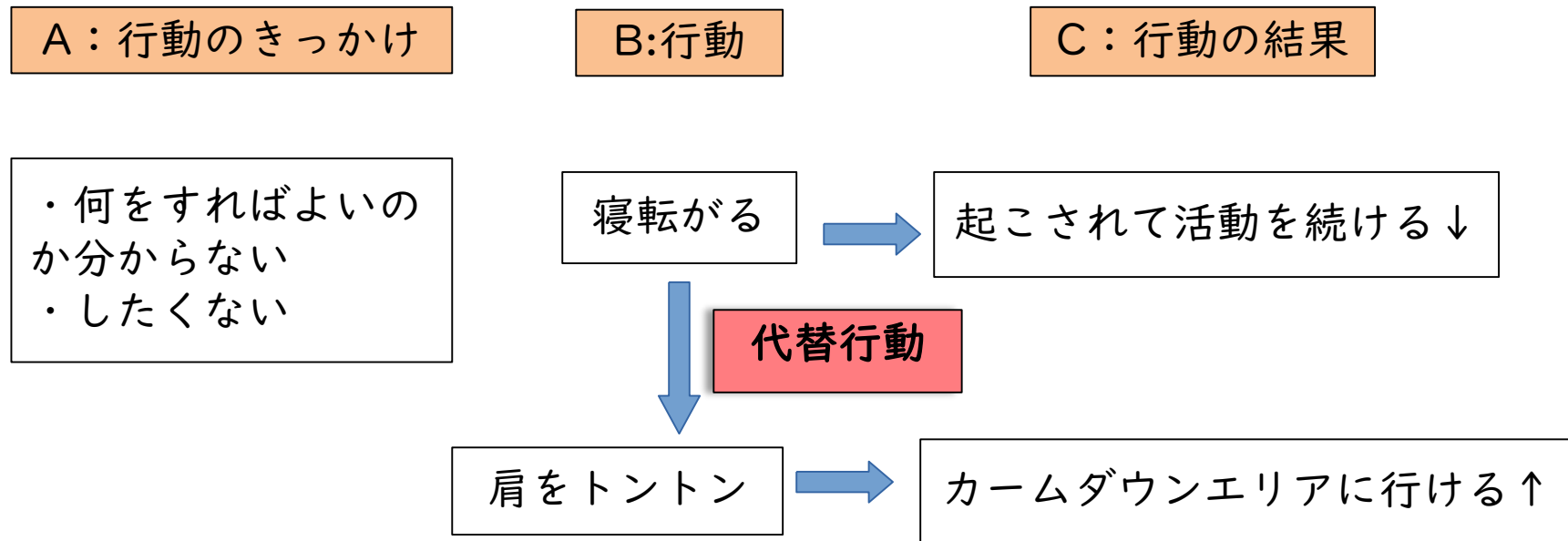
- **step1:T2がT1の肩に触れて指差し**
6/17（月）～6/28（金） 達成率100%
- **step2:T2がT1の肩から20cm離れた距離で指差し**
7/1（月）～7/5（金） 達成率90%
- **step3:T1の肩から30cm離れた距離で指差し**
7/8（月）～7/12（金） 達成率100%
- **step4:指差しなし**
7/15（月）～7/19（金） 達成率66.7%

課題

- ◆ T1の「カームダウンエリアで休みましょう」の言葉かけとT2の指差しがあれば目標とする行動はできた。
- ◆ 依然として寝転んで拒否を伝える場面が多かった。
- ◆ 不安定になる場面で、実際にサインを活用するための指導手続きが必要だった。

アドバイザーからの助言①

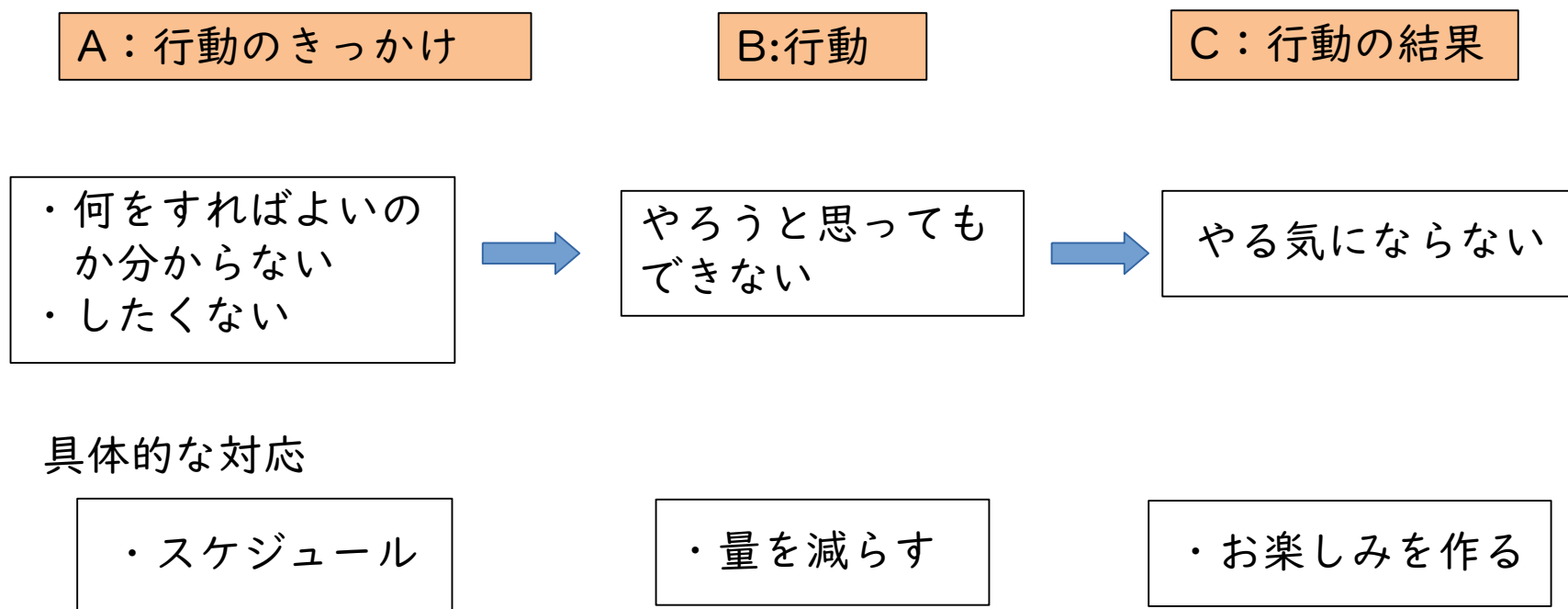
○代替行動は実際の場面で指導する。



- ・肩トントンのやりとりは寝転ぶ前に行う。
(寝転んでしまったら1度立たせてからやりとりを行う。
: 2回目の助言)

アドバイザーからの助言②

○寝転がらずにどう参加できるか考える。→環境を整える



助言を受けての見直し

指導 1

- 不安定になる前兆が見られたら，その時に練習する。
- 肩トントンする以外の場面では，カームダウンエリアに入れないようについたりや教員がブロックできる位置に立つ。
→ 学校生活全般で，不適切な行動が見られたら指導する。

指導 2

- 環境を整える。
→ 不適切な行動が起こる頻度の高い掃除の時間に環境を整えて指導する。

指導の手続き

指導 1 学校生活全般の指導

不適切な行動が見られたら

→ 「カームダウンで休みますか？」の言葉かけ

→ 「トントンして」の言葉かけ

→ 「モデリング」

→ 「身体介助」の順番で働きかける。

トントンと肩にタッチできたら，カームダウンエリアで3分間休んだ後，活動に戻る。

指導 2 掃除の時間に環境を整えて指導

「対象生徒に分かりやすいイラストで示した個人のスケジュールを用意する。」

「1つの活動が終わる度に休憩をはさむ。」

「活動後にお楽しみを設ける」等を取り入れて指導する。

記録方法

☆記録 1

学校生活全般で、不安定になった時のきっかけや前兆を記録する。教員の働きかけを数値化する。

5点：「言葉かけなし」

4点：「カームダウンで休みますか？」

3点：「トントンして」

2点：「モデリング」

1点：「身体的介助」

☆記録 2

掃除の時間で、不安定になった時のきっかけや前兆を記録する。教員の働きかけを数値化する。

5点：「不適切な行動なし」

4点：「カームダウンで休みますか？」

3点：「トントンして」

2点：「モデリング」

1点：「身体的プロンプト」

記録 I (9月・10月) 学校生活全般の記録

言葉かけなし

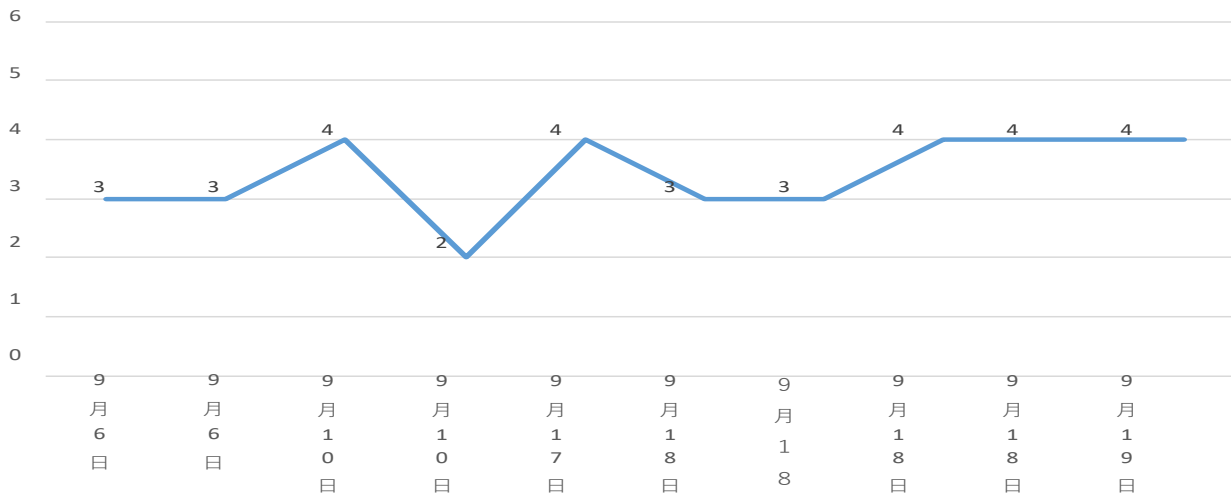
カームダウンで休みましょう

トントンして

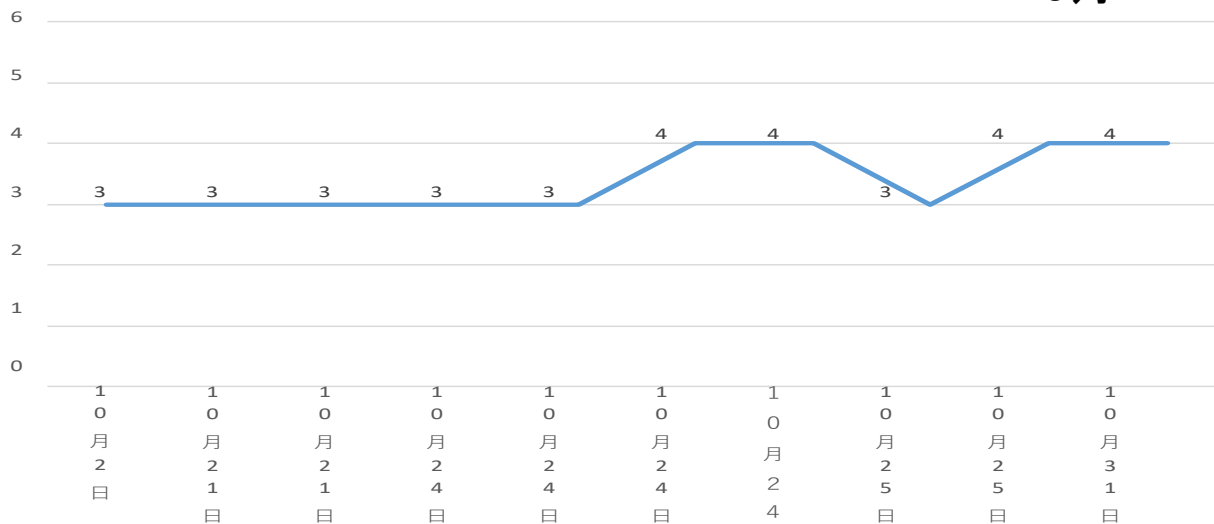
指差し

身体的なプロンプト

9月



10月



言葉かけなし

カームダウンで休みましょう

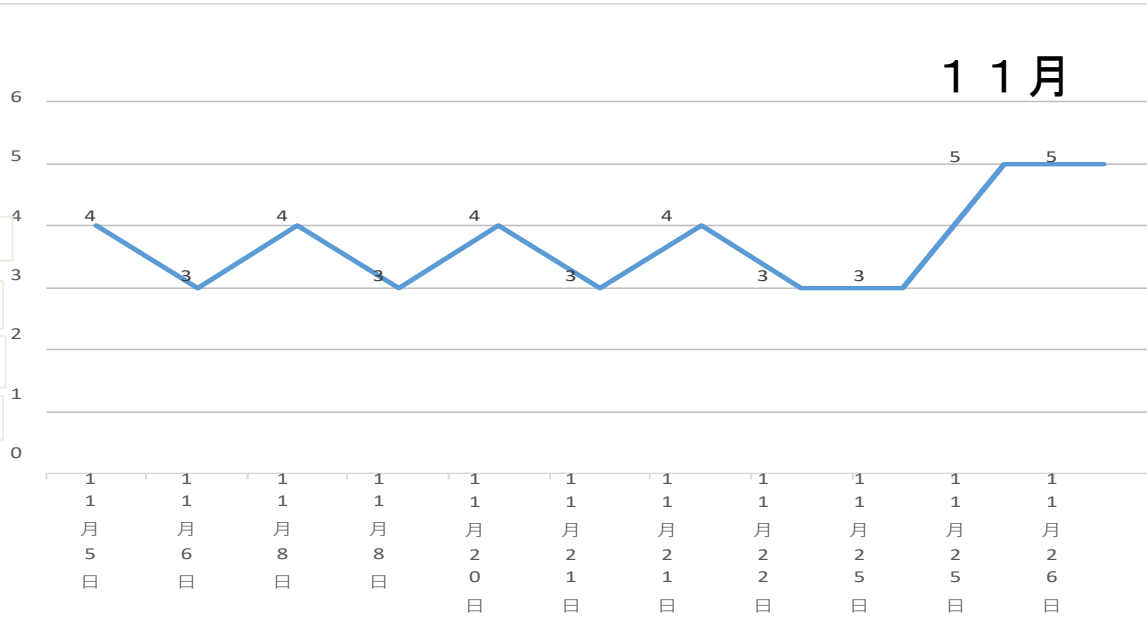
トントンして

指差し

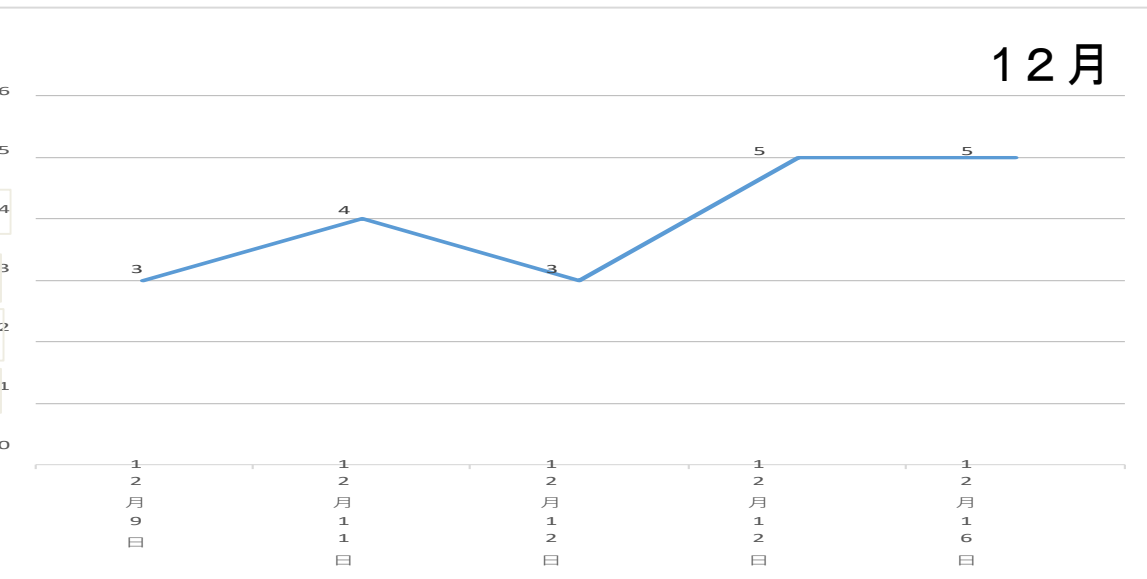
身体的なプロンプト

記録 I (11月・12月) 学校生活全般の記録

11月



12月



言葉かけなし

カームダウンで休みましょう

トントンして

指差し

身体的なプロンプト

言葉かけなし

カームダウンで休みましょう

トントンして

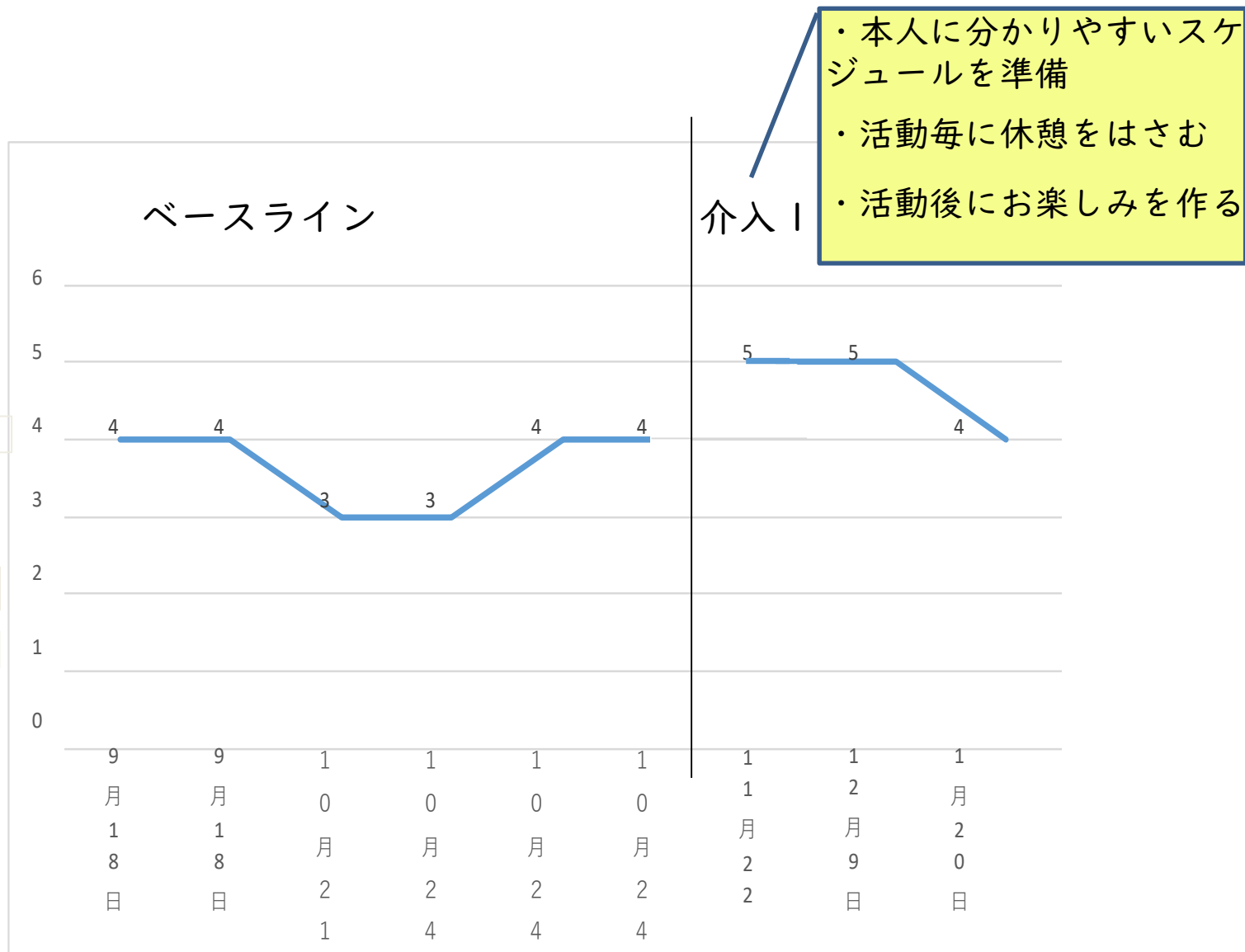
指差し

身体的なプロンプト

記録 2

掃除の時間に休みたいことを伝えた記録

- 不適切な行動なし
- カームダウンで休みましょう
- トントンして
- 指差し
- 身体的なプロンプト



指導の成果

【学校生活全般の指導】

- 教室以外の場所でも「カームダウンで休みますか？」か「トントントンして」の言葉かけで教員の肩をタッチすることができるようになった。
- 休憩後には、タイマーが鳴るとほぼ活動に戻ることができた。しかし、寝転んだ後、教員の言葉かけで伝えることがほとんどだった。
- 今後、寝転ぶ前に自主的に休みたいことを伝えられるように指導していく必要がある。

【掃除の時間の指導】

- 実施回数は少なかったが、2回は不適切な行動を起こすことなく、掃除の活動を最後まで行うことができた。
- 介入前は、掃除中に2～3回不適切な行動が見られていたが、介入後は不適切な行動が見られても1回と少なくなった。
- 視覚的な手がかりと適度な休憩、活動後のお楽しみ等を取り入れた環境を設定したことで、安定した気持ちを保持した状態で活動に参加できるようになった。

ここが成功のポイント

- 自分の意思を伝える手段を学ぶことはメリットがあった。
 - 教員の肩にトントンとタッチしたら休憩でき、気持ちの切り替えができた。
 - 情緒の安定につながった。
 - 人に対して発信しようとする気持ちが育ってきた。
- 対象生徒にとって分かりやすい環境を設定した。
 - 個別のスケジュールを用意したことで、見通しが持て、不安感がなくなった。
 - 活動毎の休憩により、気持ちをリセットできた。
 - 不適切な行動で拒否や不快な気持ちを表現する必要がなくなった。